

「少子化・人口減少対策に係る
施策（案）の発表」第6回会議
2024.8.29プロジェクトチーム考案！
新たな施策（案）の発表

令和6年8月29日（木）「第6回 茨城町少子化・人口減少対策プロジェクトチーム会議」を開催しました。

今回は、これまでグループごとに検討していただいた少子化・人口減少対策に係る新たな施策（案）について発表していただきました。各グループにおいて、時間をかけて真剣に考えていただいた施策（案）は、様々な視点からの発想が詰まっており、どれも新鮮で魅力的な提案でした。

チーム員の皆様からいただいた貴重なご意見を基に、町では今後も少子化・人口減少対策をはじめとした各種施策を検討し、町民の皆様の希望がかなえられるようなまちづくりに取り組んでいきたいと考えています！

少子化・人口減少対策に係る新たな施策（案）の内容（発表より）

1班

事業名	ファミリーサポートセンターの設置	情報発信の強化	屋内のこどもの遊び場整備
現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ●ファミリーサポートセンターが設置されていない ●センター設置を求める声が多い ●受け入れ側が高齢の方が多い ●ファミサポの認知度が低い（周知があまりされていない） ●利用者数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ●「茨城町といえば！」という項目が少ない ●茨城町はイベント情報等多い（お知らせ要素強い）→他市町村は風景やグルメ等が多い ●フォロワー数（町外の方の認知度が低い） ●SNS自体の認知度が低い ●内容の充実度（興味のある内容となっているか） 	<ul style="list-style-type: none"> ●屋外の遊び場が多い ●全天候対応型の屋内の遊び場の設置を求める声が多い ●施設の空きスペースやコミュニティセンター、廃校等利用できそうな施設がある ●長期休みの屋内での交流の場がない
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事と育児を両立できる環境を整備 ●父母以外の大人と関わることでこどもの成長につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ●他にはないものを発信（町外の方に興味を持ってもらう内容） ●町外：魅力を知ってもらう、町内：相談、悩み事を解決できる場に ●イベント、施策等をわかりやすく発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●子供を遊ばせることができる環境を充実させ、子育てしやすいまちづくりを実現 ●子供たちの教育の場を提供する ●既存施設の復興・存続
企画の概要／コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ぐるみでの子育て ●相談できる場の提供 ●相互援助 ●仕事への早期復帰 	<ul style="list-style-type: none"> ●Xやインスタは興味があるものをAIが判別→そのシステムを利用して興味や趣味に引っ掛かるような投稿 ●LINEにAI→子育てに特化したLINE ●誰をターゲットにするか、コンセプトを定めて投稿 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯が集まり、交流できる場とする ●ファミサポと連携した託児所付施設の設置 ●遊び場の提供により、体力不足の解消とコミュニケーション力の発達を促す
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ●保育学生の学習の場としても ●マッチングシステムの構築 ●病児保育 ●休園している幼稚園（沼前幼稚園）を活用する ●沼前幼稚園の先生に依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> ●「LINE」ライフステージを登録すると自動で情報がかかる仕組み ●地域の習い事等を発信できる仕組みづくり → 特任SNS員が活躍するチームを取材する等 ●町内の学生等特任SNS員を募集→10人／任期：1年間 ●ハッシュタグキャンペーン（ex. #ばきまちめぐり） ●茨城町といえばこれ！のイメージづくり。 ●ひめまるくんの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●廃校を活用して自分のやりたいを極める場の提供（教室ごとにコンセプトを決めてこどもの極めたいを追求できるように）※キッズシア ●公民館の開放日の設置 ●公民館を利用している高齢者と昔遊びをしたり交流できる場を提供
得られる効果	<ul style="list-style-type: none"> ●育児負担の軽減 ●地域の活性化 ●安心して子育てできる環境 ●地域ぐるみで子育てすることで防犯（子と親を守る仕組み） 	<ul style="list-style-type: none"> ●町内の人が自分の街に興味を持ってくれる ●「フォロワー数県内1」等で住民の誇りに繋がれば 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て環境の充実 ●幅広い世代の親同士の交流の場となり、子育てに関する情報交換の場
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●沼前幼稚園にファミリーサポートを設置し、利用開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ●フォロワー数県内NO.1（X、Instagram、LINE） ●見やすい新しいHPの改修 	<ul style="list-style-type: none"> ●徒歩20分1か所設置 ●町内の屋内施設を利用したイベントを年2回開催
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ●会員20人満たすのか ●病院等の他機関との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ●AIの導入に費用と、技術、時間がかかる ●特任SNS員の人集め ●町役場の人手確保 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設利用時の際の責任者の設置 ●イベント開催時の予算をどうするか？

事業名	路線バス定期券購入時の助成支援	学用品のリユース事業	出産費用の助成
現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城町から水戸駅、羽鳥駅までの利用者が多いが、1か月で約23,000円かかっている ●経済負担を圧迫している定期代の助成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯の多くが、経済面の負担・不安を感じている ●制服や体操服は子供の成長段階で買い替える必要があり、使用する期間がもったいない。また、買い替えに伴う経済的負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城県は出産費用が高い ⇒（令和4年度は全国で4番目に高い：平均値503,927円） ●※出産一時金（50万円）や社会保険からの付加給付を超えた額は自己負担（平均96,000円）となっている
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●経済的負担の軽減 ●在住者の確保と転出者の抑制 ●バス利用者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代の経済的負担を軽減する ●ごみの減量化を実現する ●子供たちにSDGsを体験させる 	<ul style="list-style-type: none"> ●出産時の経済的負担の軽減 ●出産数の増加
企画の概要／コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ●路線バス通学用定期券購入の助成金、給付 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業、進級などで不要になった学用品等を必要な方に提供しリユースする 	<ul style="list-style-type: none"> ●出産費用の自己負担分の助成 ⇒県内で実施している市町村がないため、独自の事業として差別化を図れる
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ●バス定期購入時には50%の助成（対象：高校生、大学生、専門学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ●各学校、庁舎等に回収BOXを設置し、不用品の回収を行う ●ランドセル見学会、贈呈時にあわせて展示会を行い、希望者に提供する ●ジモティーと連携し、制服や体操服などの衣類は個人間でリユースを行う ●ハッシュタグも設けて取引を啓発し、SNS等で周知する ●町民祭の際にリユースに関するワークショップ（不用品の利活用）を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ●出産費用から出産一時金（50万円）を除いた額を助成（下限5万円 上限10万円） ●※水戸市の産院でかかる平均負担額を参考
得られる効果	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の経済的負担軽減 ●在住者の確保と転出者の抑制 ●負担軽減による路線バスの利用促進 ●バス利用による家族対応の軽減（保護者の送迎負担軽減） ●対象者以外の子供においても子育て支援のサポート拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の経済的負担の軽減 ●ごみの削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●出産時の費用に関する不安の軽減 ●茨城町で出産を希望する転入者の増加
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の利用者数の20%増 ●成人後も町内在住を選択肢の1つに 	<ul style="list-style-type: none"> ●リユースの啓発 ●学用品の再利用 	<ul style="list-style-type: none"> ●出生数150名（令和5年度は115名）
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ●路線バスの本数や運行状況変更の可能性が高い（利用者減少による） ●利用者増加した際の継続予算検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●AIの導入に費用と、技術、時間がかかる ●特任SNS員の人集め ●町役場の人手確保 	<ul style="list-style-type: none"> ●定住にどう繋げるか ※出産費用の助成での定住化に繋げるのは難しい

おわりに

「茨城町少子化・人口減少対策プロジェクトチーム」は、今回をもって全6回の日程をすべて終了しました。プロジェクトチーム員の皆さまからは、様々な視点から少子化・人口減少に対するご意見・ご提案をたくさんお聞きすることができました。プロジェクトチーム員の皆さま、また、アンケート調査にご回答いただいた皆さま、ご協力ありがとうございました。

町では、皆さまからいただいたご意見を基に、今後も少子化・人口減少対策をはじめとした各種施策を検討し、このまちが多くの人々に選ばれ、住む人が今よりも豊かに安心して暮らせるまちとなるよう、全力でまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。今後ともご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

